

楽しく学べる外国語活動の工夫

～生き生きと活動する子どもたちの姿を求めて～

山口県宇部市立藤山小学校 教諭 尾山善昭

1 研究の概要

平成23年度(2011年度)から外国語活動が小学校において本格的に実施されようとしている。英語指導の経験がほとんどない我々が、子どもたちに何をどのように教えればよいのか不安が非常に大きい状況ではある。しかし、小学校で学ぶ英語は英語教育の第一歩であり、子どもたちが「楽しい」「英語が好き」「習った英語を話したい」「コミュニケーションをしたい」というような思いを育み尊重していくような実践を行っている。



2 実践事例

①授業の流れ

ふれる	じかくする	やってみる	まとめる
挨拶, 前時の復習, ウォーミングアップなど	導入, 課題の把握	主活動	授業のまとめ, 振り返り

②クラスルームイングリッシュとジェスチャー

- ・外国語活動の授業をしているのだという雰囲気醸成
- ・英語を使うモデルとしての教師の役割

③ゲーム活動

楽しみながら、自然に英語を話す機会をつくる。

- <例> ・ミッシングゲーム ・スリーヒントゲーム ・オープンウィンドウ
・キーワードゲームなど

④様々な場面での活用

<例> ・朝の健康観察

“How are you?” → “I’m fine.” “I have a headache.”

- ・音楽(英語の歌など), 図工(色など), 家庭科(料理名, 食材など), 体育などの教科での利用

3 まとめ

本校教員に限らず、どの学校でも外国語活動導入に向けてさまざまな環境を整えているところだと思う。我々教師が子どもたちに対して、「英語の授業が難しい」「子どもたちに教えていく自信がない」というような姿を子どもたちに示せば、子どもたちも、当然「英語は難しい」「英語がよくわからない」と思うようになってくるはずである。夏休みの研修(平成21年度小学校外国語活動に係る担当教員研修)で、広島大学大学院教育学研究科の深澤清治教授より教えていただいた言葉【TEAM (「T」は Together, 「E」は Everyone, 「A」は Achieves, 「M」は More, すなわち、みんなで力を合わせればもっとという意)】を胸に、外国語活動の本格導入の環境作りに取り組んでいきたいと思っている。